



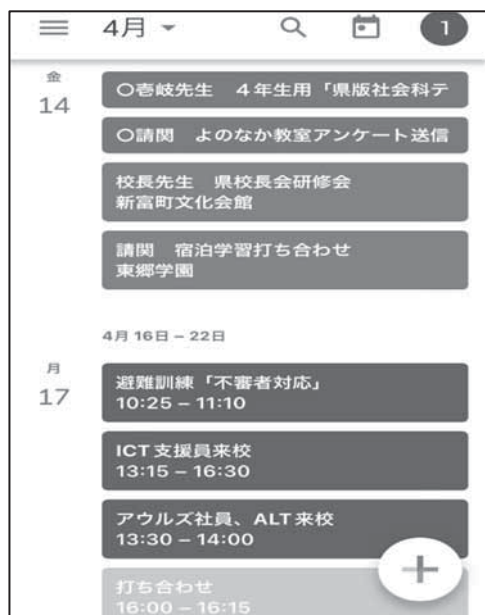


### ウ ミドルリーダーの積極的な活用

- 教育課程、行事の企画運営等について、ミドルリーダーへの指導を丁寧に進め、情報提供を図る。
- 学級担任会や学年主任会等に管理職は同席せずに、ミドルリーダーが中心となった話し合いを行い、同僚性やOJTを高める。
- ミドルリーダーの研修会への参加や研修視察等を積極的に推進する。

### エ ICT機器の活用

- 「Teams」を活用して、業務連絡、行事の反省やデータの共有、職員会議における同時進行での文書の書き換えなど、様々な情報を共有し、積極的に活用を図っている。
- 「グーグルカレンダー」を活用して、その日の日程(行事等と時間)、出張スケジュール、提出物の確認など、PC、スマホから閲覧・入力が可能である。提出物については提出が済んだら「○」を付けるようにしているので、提出漏れがほとんどなくなってきた。



【グーグルカレンダーの活用例】

### オ 日々のコミュニケーションの積み重ね

職員の学校組織への参画意識を高め、自己有用感をもたせる上で、欠かせないのはやはり日常のコミュニケーションによる信頼関係の構築であり、また日々の教育活動への感謝の言葉であり、労いの言葉であると考え。教職員全体に対して、また一人一人に対して校長が一貫して学校経営ビジョンを説き、それに対する教職員の取組への感謝の気持ちを伝えていくことが課題解決に向けて教職員のベクトルを揃え、モチベーションを高め、何よりも大切であると考え。

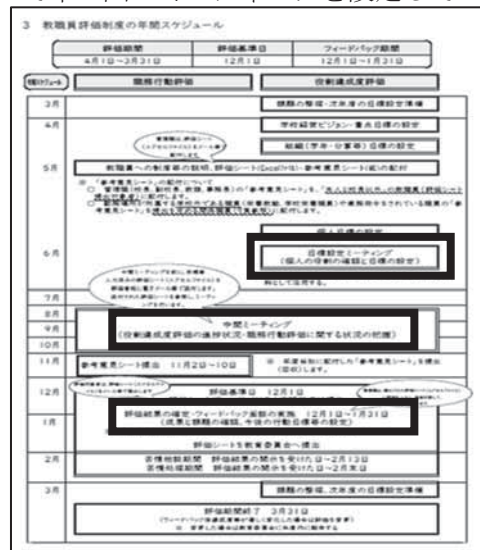
## (2) 学校経営ビジョンの具現化に向けた学校運営の推進

### ① 個々の教職員の実践に対する課題提示と評価の工夫

#### ア 教職員評価(ミーティング)の活用

教職員が意欲的に業務を遂行できるように適切な課題提示や評価を適宜行っていくことが大切である。しかし、学校規模等により十分に時間がとれない場合もある。

そこで、教職員評価制度のミーティングを教職員とじっくり話し合う機会と捉え、教職員のモチベーションの高揚につなげている。宮崎県では以下のようなスケジュールで年3回のミーティングを設定している。



【教職員評価の年間スケジュール】

ミーティングでは、校長として以下のような点に留意し、評価や課題提示を行った。

- ベテランの教職員には取組への感謝を、中堅の教職員には期待を、若手の教職員には褒めることを心がける。
- 授業や学級経営だけでなく、校務分掌についても教職員一人一人が頑張っていることを褒める。課題については、一緒にアイデアを出し合い、取組への見通しをもたせる。
- 改善点については、良かった点・更なる改善点はあるか等を共有するとともに、どうすれば教職員が取り組みやすいかという視点でも意見を交わす。

#### イ 校内人事の機会の活用

次年度の学級担任及び校務分掌等の打診を行う際に、1年間の取組でよかった点や頑張った点を褒めるようにした。さらに、なぜそのような人事を行ったのか、次年度期待することは何なのかなどについて丁寧に説明した。

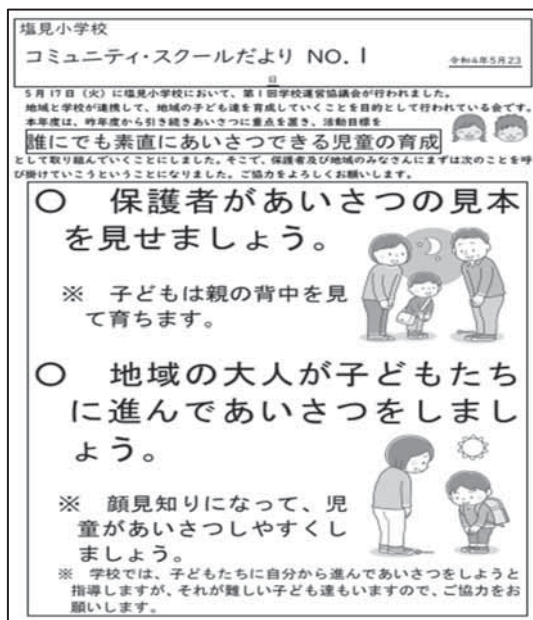


② 家庭や地域との連携及びコミュニティ・スクールの充実

ア 家庭や地域等との連携

a 学校経営ビジョンの周知

校長の学校経営ビジョンを学校運営協議会で説明し、その承認を受け、家庭及び地域への周知を図っている。そこで、コミュニティ・スクールだよりを発行し、各地区にも配付し回覧してもらっている。



【コミュニティ・スクールだより】

b 公民館との連携

公民館と一体となった複合施設の小学校では、学社融合の推進のため公民館講座への児童の参加、学校行事の地域貢献、学校支援ボランティアの整備等を進めている。また、学校（校長・教頭・教務主任）と公民館（館長・職員）、教育委員会（生涯学習課職員）で「学社融合推進会議」を組織して会合を開催している。



【公民館講座への児童の参加】

イ コミュニティ・スクールの充実

学校の教育活動に地域の方々に参加していただき、活動の充実、児童の学習内容の定着や地域の伝統や芸能の継承などを行い、連携を図っている。

a 地域コーディネーターとの関わり

学校の教育活動に地域の方々の参加を呼びかける際には、活動内容ごとに示された「学校支援ボランティア名簿」を活用している。地域コーディネーターが学校との打合せを行い、ボランティアの方々と連絡をとり、行事や授業等に参加していただいている。

氏名	フリガナ	今年度の活動状況				支援ボランティアが可能な内容			
		学校行事	授業支援	ボランティア	その他	授業支援	ボランティア	その他	
7									
8		防災マップ作成	○	○					
9		防災マップ作成	○	○					防災
10		1年書からの遊び	○	○	○				
11		言葉あそび	○	○					あいさつ
12		持久走競走見守り	○	○					
13						○	○		
14							○	○	
15							○	○	
16							○	○	

【学校支援ボランティア名簿】

5 成果と課題

(1) 成果

- 学校経営ビジョンや具体的な数値目標を教職員と共有することで、決裁文書等での指導の重点化が図られ、教職員の学校運営への参画意識の高まりが見られた。
- 校務分掌の組織の再編やミドルリーダー等の活用により、個々の教職員の適切な役割分担と連携が図られるようになった。
- 家庭や地域と連携した教育活動を啓発、紹介することで、より多くの方々に学校運営に携わっていただき、児童への教育的効果を高め、教育活動の充実が図られた。

(2) 課題

- 学校規模や職員数、児童の実態、学校の教育的課題に応じて、活力ある組織づくりを更に進めていく必要がある。
- 地域との連携において、地域の組織的機能を活かした連携の在り方について更に工夫改善を図っていく必要がある。

6 おわりに

本研究は市内の抽出校だけの取組ではなく、13校の実践である。自校での取組を他校に紹介し、それぞれの学校の特色に応じて他校の取組を実践してきたものである。

その中で活力ある組織づくりには、明確で分かりやすい学校経営ビジョンの共有と個々の教職員の役割分担と連携が不可欠であることが確認できた。学校によって、教職員数や児童の実態、地域性に違いがあることから、今後もさらに研究を深め、検証を進めていきたい。